

Ⅰ文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
 - b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。
- C次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字として1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものを。
- d 答案の文章が最後まで完結していないものを。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 (評論)

* 明らかな誤字、語句・接続語・助詞・助動詞等の誤用はそのつどマイナス1点。また、キータームを含んでいても説明の方向性が全くズレていると判断される答えは0点とする。

一 (80点)

問一

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点 4点
1点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 折口にとって「古代」とは、そこで始原の時間と空間が再生される 眼前の場であり、今も修験の徒により
B 伝統的な芸能として演じられている 祝祭の場そのものであるということ。
C
D
E

- 採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

- 要素A「折口にとっての『古代』とは」…2点

- ・答案の主題提示。折口にとっての「古代」とは何かを説明していることが、答案のどこかに明示されていればよい。
- ・「折口にとって(の)」がなければ1点

- 要素B「始原の時間と空間が再生される」…4点

- ・ほぼ本文の記述をなぞっている。
- ・「時間」「空間」のいずれかを欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

- 要素C「眼前の場であり」…3点

- ・本文の「いまここで」に対応する説明。「いまここ(で)」をそのまま使っていても可。

- 要素D「修験の徒により伝統的な芸能として演じられている」…3点

- ・「修験(の徒)」「伝統的」「芸能」がキーワード。それぞれ1点として加点していく。

- 要素E「祝祭の場そのもの」…2点

- ・折口にとっては「芸能」の演じられる「祝祭の場」に「古代」があるというニュアンスが読み取れれば可。

■要素F 原則的な文末形式は「…こと」であるが、答案全体が折口信夫にとっての「古代」の意味の説明
になっているなら許容。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点 4点
1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。
A 汚れた人間的な「心」を洗い清めて 覚りの境地に到達することで、
B 全ての人間が 超人間的な意識を持つ無
C 限の存在としての如来となる可能性を孕んでいるという「如来蔵」の哲学。
E

- 採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

- 要素A 「汚れた人間的な『心』を洗い清めて」…2点
- ・本文は「人間的な汚れに染まった『心』」となっている。もちろんこのままでもよい。

- 要素B 「覚りの境地に到達する」…2点
- ・「…に到達する」は「…に達する・至る」「…を得る・獲得する」などでも可。

- 要素C 「全ての人間が」…2点
- ・示されているか否かで判定

- 要素D 「超人間的な意識を持つ無限の存在としての如来となる可能性を孕んでいる」…6点
- ・目安は「超人的な意識を持つ」「無限の存在」「如来となる可能性を孕んでいる」を各2点として加
点する。

- 要素E 「『如来蔵』の哲学」…2点
- ・示されているか否かで判定。

- 要素F 「認識の基盤」の説明となっていると判断できれば、「…もの・こと・哲学」など許容。文末形
式が不適切と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 1 4点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

超人間的な如来としての「意識」は 人間的な「心」の奥底に開かれるもので、それを清め無化することで

B

C

D

出現する、消滅の「空」ではない生成の「空」こそが始まりとなるから。

- 採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可 (0点)

- 要素A「超人間的な如来としての『意識』は」…3点

- ・如来の「意識」が超人間的であることの説明があればよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

- 要素B「人間的な『心』の奥底に開かれる」…4点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

*A・Bは、本文の「人間的な意識の奥底にひらかれる超人間的な如来としての『意識』」による。このまま答案に引かれていても可。

- 要素C「それを清め無化することで出現する」…3点

- ・「清め」と「無化」のいずれか一つだけの場合は2点とする。

- 要素D「消滅の『空』ではない生成の『空』こそが始まりとなる」…4点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

- 要素E 「…ので・から」「…という理由(による)」など理由説明の文末形式になっていればよい。不

適切であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素I参照

基準 配点 28点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 一切の有限な存在が森羅万象を生成する無限な存在へと至りうると説く「如来蔵」の真理を、鈴木大拙は
 仏教的「靈性」、折口信夫は神道的「憑依」に結びつけ、両者が重なり合う地点に立って、ギリシア哲学の
 起源にディオニソスの「憑依」を位置づけた井筒俊彦が、ギリシアのアイデアとイスラームの神をそれと等値
 して「東方哲学」として総合した。
 H

- 採点方法…各要素単独採点

■字数…百六十字以内 七十九字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A「一切の有限な存在か森羅万象を生成する無限な存在へと至りうると説く」…5点
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

■要素B「『如来蔵』の真理」…2点

- ・「如来蔵」という語は必須。
- ・「真理」は「哲学・教え・考え方」などでも可。

*AはBの「『如来蔵』の真理(哲学)」についての説明。一つのまとまりとして吟味する。

■要素C「鈴木大拙は仏教的『靈性』」…3点

- ・「仏教的」がなければ2点。

■要素D「折口信夫は神道的『憑依』」…3点

- ・「神道的」がなければ2点。

■要素E「両者が重なり合う地点に立って」…3点

- ・井筒俊彦の思想が、鈴木大拙と折口信夫の思想を前提として成立しているというニュアンスが読み取れればよい。

■要素F「ギリシア哲学の起源にディオニソスの『憑依』を位置づけた井筒俊彦」…5点

- ・「ディオニソス」という語がなければ3点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

■要素G「ギリシアのアイデアとイスラームの神をそれと等値して」…4点

- ・「等値して」は「等しいものとして」「同等のものとして」などでも可。

■要素H 「『東方哲学』として総合した」…3点

- ・「東方哲学」という語がなければ0点。

■要素I 答案が設問の要求に見合った説明の形になっていれば許容。

問五 解答通り(各2点)

a || 果敢 b || 鍛 c || 不可避 d || 浸透(滲透) e || 陶醉

二 古文 30点

◆各設問共通

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 文学史 次の作品群の中で、登場人物として外国人が登場しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

イ『古事記』 ロ『宇津保物語』 ハ『源氏物語』

ニ『浜松中納言物語』 ホ『堤中納言物語』

ホ (2点)

問二 文法 空欄(a)～(d)には、助動詞「り」が入る。適切な活用形に直して答えなさい。

(a) ・ (b) (c) (d) (2点×4)

(已然形れも正解とする)

※傍線部①～③を、それぞれ現代語訳しなさい。

①

(模範解答)

A ○2点

独身でございます時

B ○2点

であったとしたら、

(4点)

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「独身でございます時」(2点)

※「一人一侍る一ほど」の訳

× 「独身でございます時(独り身でありました頃)」というような記述がなければ×。0点。

○ 「独身でございます時(独り身でありました頃)」というような記述があれば、○2点。

B 「であったとしたら」(2点)

※「なら一ましか一ば」の訳

× 「であったとしたら(断定・反実仮想の意味)」というような記述がなければ×。0点。

○ 「であったとしたら(断定・反実仮想の意味)」というような記述があれば、○2点。

②

(模範解答)

A ○2点

婿君におなりになる

B ○2点

予定だそうです。

(4点)

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「婿君におなりになる」(2点)

※「婿一に一なり一給ふ」の訳

× 「婿君におなりになる」というような記述がなければ×。0点。

○ 「婿君におなりになる」というような記述があれば、○2点。

B 「予定だそうです」(2点)

※「べか一なり」の訳

× 「予定だそうです」(断定・反実仮想の意味)「というような記述がなければ×。0点。

○ 「予定だそうです」(断定・反実仮想の意味)「というような記述があれば、○2点。

③

(模範解答)

A ○2点

素知らぬ様子で

B ○2点

おっしゃるかも知れないと待つけれど

(4点)

◆各加要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「素知らぬ様子で」(2点)

※「つれなく一て」の訳

× 「素知らぬ様子で(さりげないふりして)」「というような記述がなければ×。0点。

○ 「素知らぬ様子で(さりげないふりして)」「というような記述があれば、○2点。

B 「おっしゃるかも知れないと待つけれど」(2点)

※「『のたまひ一や一する』と一待て一ど」の訳

× 「おっしゃるかも知れないと待つけれど(何かおっしゃるかど待つのだが)」「というような記述がなければ×。0点。

○ 「おっしゃるかも知れないと待つけれど(何かおっしゃるかど待つのだが)」「というような記述があれば、○2点。

○ 「おっしゃるかも知れないと待つけれど(何かおっしゃるかど待つのだが)」「というような記述があれば、○2点。

問四

※傍線部A「君のたまふやうには言はで」とあるが、御乳母はなぜこうしたのか、六〇字以内で説明しなさい。

(模範解答)

A ○ 3点

親もない今の妻では何の恩恵にも浴せない

B ○ 3点

中将が右大臣の婿になれば、立派な後見を受けられるようになる

(6点)

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「親もない今の妻では何の恩恵にも浴せない」(3点)

※「この御妻は、父母もなきやうにて、ただ君にのみこそかかり給ひためれ」の内容理解

× 「親もない今の妻では何の恩恵にも浴せない」というような記述がなければ×。0点。

○ 「親もない今の妻では何の恩恵にも浴せない」というような記述があれば、3点。

B 「中将が右大臣の婿になれば、立派な後見を受けられるようになる」(3点)

※「はなやかにかしづかれ給へらば、よからむかし」の内容理解

× 「中将が右大臣の婿になれば、立派な後見を受けられるようになる」というような記述がなければ、0点。

○ 「中将が右大臣の婿になれば、立派な後見を受けられるようになる」というような記述があれば、○3点。

※文末表現

「…と考えたから。(…から)…ので。」などとなっていないものは、減点1点。

※制限字数を超えたものは、減点2点。

※傍線部B「女、心憂しと思ひたる気色」とあるが、女君はなぜこのような態度であったのか、その理由を七〇字以内で説明しなさい。

(模範解答)

A ○2点

母上などが、右大臣の娘との縁談を強引に進めていて

B ○2点

中将も承知せざるを得ない状況になっているようなのに

C ○2点

中将は女君に何も言ってくれないから。

(6点)

◆各加要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「親もない今の妻では何の恩恵にも浴せない」(2点)

※「この母北の方、しひてのたまふにやあらむ」の理解

×「源氏は、女三の宮のもとから出て行ってしまった」というような記述がなければ×。0点。

○「源氏は、女三の宮のもとから出て行ってしまった」というような記述があれば、2点。

B 「中将殿も承知せざるを得ない状況になっている」(2点)

※「さやうなる人の押し立ちてのたまはば、聞かではあらじ」の理解

×「中将殿も承知せざるを得ない状況になっている」というような記述がなければ、0点。

○「中将殿も承知せざるを得ない状況になっている」というような記述があれば、○2点。

C 「…と思い込んでいたから。」(3点)

※「つれなくて、のたまひやすると待てど、かけても言ひ出で給はず」の理解

×「中将は女君に何も言ってくれない」というような記述がなければ、0点。

○「中将は女君に何も言ってくれない」というような記述があれば、○2点。

※文末表現

「…から。…ので。」などとなっていないものは、減点1点。

※傍線部C「あな憂。さればよな、なほ思すことありけり」とあるが、男君はどのように考えたのか、六〇字以内で説明しなさい。

(模範解答)

A ○2点

自分は一途に愛しているのに、

B ○2点

自分に関する女性関係の不愉快な噂を聞いて、

C ○2点

女君はそれを言えずに悩んでいるのだと考えた。

(6点)

◆各加要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「自分は一途に愛しているのに」(2点)

※「重ねなでひとへに君を我ぞ思へる」の理解

×「自分は一途に愛しているのに」というような記述がなければ×。0点。

○「自分は一途に愛しているのに」というような記述があれば、3点。

B 「自分に関する女性関係の不愉快な噂を聞いて」(2点)

※「心ならでやものしきことも聞きたまはむ」の理解

×「自分に関する女性関係の不愉快な噂を聞いて」というような記述がなければ、0点。

○「自分に関する女性関係の不愉快な噂を聞いて」というような記述があれば、○2点。

C 「女君はそれを言えずに悩んでいるのだと考えた。」(2点)

※「なほ、のたまへ」の理解

×「女君はそれを言えずに悩んでいるのだと考えた。」というような記述がなければ、0点。

○「女君はそれを言えずに悩んでいるのだと考えた。」というような記述があれば、○1点。

※文末表現

「…と考えた。」などとなっていないものは、減点1点。

神戸大本番レベル模試

三 漢文 採点基準 (30点)

※要素別に採点する場合、各要素の最低点は0点とする(減点の結果、ある要素が0点以下になってもその要素は0点)。

大問三 問一

基準 配点:4点(1点×4)

■模範解答 解答例のみ正解

- ① すなわ(は)ち
- ② なかれ〔と〕
- ③ また
- ④ にくむ

・解答例のみ正解。

問二(ア)

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。

基準 配点：7点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 2点

もし死後の靈魂がないならば、

B 1点

賭博の道具は

C 2点

私の白骨とともに

D 2点

土になるだけのことだ。

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A 「如無鬼」の解釈⇨もし死後の靈魂がないならば…2点

- ・「もし」は「もしも」も可。

- ・「死後の靈魂」は「死後の靈」も可。

- ・「ないならば」は「なかったら」「なければ」なども可。

- ・要素A全体が仮定文であることを理解していないものは**要素A加点数なし(要素A⇨0点)**

- ・仮定文で訳していても「ないならば」の意味がとれていないもの(「あるならば」など)は**要素A加点数なし(要素A⇨0点)**

- ・仮定文で訳しているが「もし」「もしも」を欠いているものは**要素A1点減点**。

- ・「鬼」を「鬼」のままにしているものや、「死後」を欠き「靈魂」だけになっているものは**要素A**

1点減点。

要素B 主語の補い⇨賭博の道具は…1点

- ・「博打(はくち)の道具は」「賭け事の道具は」なども可。

- ・「博具」のままは**要素B加点数なし(要素B⇨0点)**。

要素C 「与白骨同」の解釈⇨私の白骨と一緒に…2点

- ・「私の」の補いの有無は不問。

ただし「私の」以外の内容を補っている場合は**要素C1点減点**。

- ・「白骨」は「骨」のみも可。
- ・「与」を「と」以外で訳していたり、訳を欠いているものは**要素C一点減点**。
- ・「一緒に」は「ともに」「同じく」「同じように」なども可。
- ・「同」の訳を欠いているものは**要素C一点減点**。

要素D「為土耳」の解釈⇨土になるだけのことだ…2点

- ・「土になる」は「土となる」なども可。
- ・「だけのことだ」は、「〜だけだ」「〜のみだ」「〜しかない」なども可。
- ・「為土(土になる)」の解釈が誤っているものは**要素C一点減点**。
- ・「耳(〜だけだ)」の解釈が誤っていたり、欠いているものは**要素C一点減点**。

問二(イ)

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。

基準 配点：6点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

もし賭博の道具がなかったら、

私はどうやって気晴らしをすることができようか、いや、できない。

要素A「此」の指示内容の明確化…1点

要素B「非」の解釈(否定+仮定)…2点

要素C「何以消遣耶」の解釈…3点

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A「此」の指示内容の明確化⇨賭博の道具…1点

・「博打(はくち)の道具」「賭け事の道具」も可。

・「博具」は不可。要素A加点数なし(要素A⇨0点)。

・「賭博の道具を棺に入れること」「私を賭博の道具と一緒に葬ること」のような内容でも可。

・「これ」としているものは要素A加点数なし(要素A⇨0点)

要素B「非」の解釈⇨がなかったら…2点

・「もし(もしも)」の有無は不問。

・「がなかったら」は「でなかったら」も可。

・「なかったら」は「ないならば」「なければ」なども可。

・A・B合わせて「賭博の道具を(お前が)棺に入れてくれなかったら」のようにしている答案も可。

・「非」が否定語であることを理解していないものは要素B加点数なし(要素B⇨0点)

・「非」が否定語であることを理解していても、仮定で解釈していないもの(「賭博の道具でない・賭博の道具でなく」など)は要素B1点減点。

要素C「何以消遣耶」の解釈＝私はどうやって気晴らしをすることができようか、いや、できない

5

…3点

- ・評価のポイントは、
 - ・全体が反語文であることを理解しているか。
 - ・結論として、「何の気晴らしも(でき)ない」という内容であることを理解しているかの2つ。
- ・「気晴らしをすることができる」「気晴らしがある」という趣旨になっているものは**要素C加点**
なし(要素C＝0点)。
- ・主語「私は」の有無は不問。
ただし別の内容の主語を補っている場合は**要素C一点減点**。
- ・「どうやって」「は、は」「べつして」「べつすれば」「何によつて」「なども可。」
・「気晴らしをすることが」「は、単に」「気晴らし」「べきようか」「べても可。」
・「どうやって気晴らしをするのか」「いや、何の気晴らしもない」「「」「べつやつて気晴らしをすればよいだろうか」「いや、何の気晴らしもない」「「」のような解釈も可。」
- ・疑問文のみで、「いや、くない」「「」の部分がないものは**要素C一点減点**。
- ・疑問文がなく、「何の(気晴らし)も(でき)ない」「「」の部分のみであるものは可。」

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。
- ・文末表現は問わない。

基準 配点：5点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 2点

父が生きていたときに、

B 2点

賭博をやめるようにそれとなく諫めることが

C 1点

できなかったということ。

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A 「生(生きて)」の説明⇨父が生きていたときに…2点

- ・「父(父親)」「または「親」が主体であることを明確にしていないものは**要素A加点数なし(要素A=0点)**
- ・「生」を「生きる」以外の意味(「生まれる」「生まれつき」など)で解釈しているものは**要素A加点数なし(要素A=0点)**

A加点数なし(要素A=0点)

- ・「生きていた時の父に」「父の生前」「生前の父に」なども可。
- ・主語(私・息子)の有無は問わない。

要素B 「幾諫」の説明⇨賭博をやめるように(それとなく)諫める…2点

- ・「賭博(賭け事・博打)」に触れていないものは**要素B加点数なし(要素B=0点)**
- ・「やめるように」「という表現でなくても」「賭博にふけることを諫める」「賭博のやりすぎを諫める」のように、「諫める」内容が具体的にあれば可。

・ただし、単に「賭博(賭け事・博打)を諫める」という表現の場合は**要素B1点減点**。

・「それとなく(遠回しに)」「の有無は問わない」。

・「諫める」は、「言つ」「忠告する」なども可。

・「諫める」の説明がなく、「賭博をやめさせることが(できなかった)」「のようにしても可」。

要素C 「不能」の説明⇨できなかった…1点

- ・不可能の意味で解釈していないものは**要素C加点数なし(要素C=0点)**
- ・「くられなかった」も可。

・過去形にしていないものは要素C加点数なし(要素C=0点)

大問四 問四

■形式上の不備

- ・文末に句点のないものは**一点減点**。
- ・その他の句読点の有無は問わない。
- ・文末表現は問わない。

基準 配点：8点

■模範解答※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 2点

しきたりに反してはいるが、

B 2点

親を敬う心からの行為であり、

C 2点

しきたりに従ってはいるが親を思う心が薄いものよりは

D 2点

よい

と評価している。

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A 「礼に非ざるなり」の説明＝しきたりに反している…2点

- ・「しきたりに従うことではない」「しきたりに反している」「しきたり通りでない」「しきたりを破っている」なども可。

- ・直訳の「しきたりで(は)ない」は**要素A一点減点**。

- ・「礼」をそのまま「礼」「礼儀」としているものは**要素A一点減点**。

要素B 「孝思已む無きの心なり」の説明＝親を敬う心からの行為であり…3点

- ・「親」は「父(親)」も可。

- ・「敬う」は「思う」「愛する」なども可。

- ・「親を敬う心」は、「親孝行したいと思う心」なども可。

- ・この部分の主語は「その子の行為」なので、「心の現れ」「心から出たもの」「心によって行ったこと」のようなつなぎ言葉がなく、「親を思う心である」のようにしているものは**要素B一点減点**。

要素B一点減点。

- ・「已む無き」の部分の説明は不問とするが、「終わらない」「止まない」「または」「やむなく」「やむを得ず」という原義から大きく外れていることを書いている場合は**要素B一点減点**。

要素C 比較対象である「事事に古礼に遵ふも、親を思ふ心は則ち漠然たる者」の説明

しきたりに従ってはいるが親を思う心が薄い者よりは…2点

- ・「昔からの・古い・伝統的な」しきたりに従う」の要素を欠いているものは**要素C一点減点**。
- ・「しきたりに従う」をそのまま「礼・礼儀」としているものは**要素C一点減点**。
- ・「親を思う心が薄い者」の要素を欠いているものは**要素C一点減点**。
- ・「親を思う」は、「親を愛する」「親を敬う」「親孝行する」なども可。
- ・「よりも」「に比べて」の要素を欠いているものは**要素C一点減点**。

要素D 「其の子」の行為に対する評価しよい…2点

- ・「よい」「は」「高く評価している」「すばらしい」「立派だ」なども可。
- ・「ました」「も可とする」。

■採点例1

しきたりを破ってはいるが、父を思うが故の行動であるため、良い行動であったと評価している。

6点

要素A 2点

要素B 2点

要素C 0点

要素D 2点

■採点例2

昔からの礼儀には反しているが、父を思う心はやめるべきでなく、その部分は評価しているといふこと。 3点

要素A 1点(減点1・「礼」の解釈の誤り)

要素B 0点(減点2・「の現れ」の不足、「已む無き」の解釈の誤り)

要素C 0点

要素D 2点

■採点例3

しきたりは関係なく、親の言う通りにすることが望ましいということ 0点

要素A 0点

要素B 0点

要素C 0点

要素D 0点(この「望ましい」「は」「其子」の行為に対する評価でなく、「一般論として」「親の言う通りにすること」「に対する評価であるように表現されてしまっている)